

2016年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

## 教室だより 4月号

### 進学・進級おめでとうございます

生徒の皆さん、保護者の皆様、進学・進級おめでとうございます。

幼稚園や小学校・中学校に入園・入学され、まったく新たな環境で新たなスタートを切られる子たち、学年がひとつ上がって、ちよっぴりお兄ちゃん・お姉ちゃんの表情を見せてくれる子たち。

新学期を迎えた生徒さんたちが、瞳を輝かせながら教室に来てくれるのを、公文教室のスタッフ一同、とても楽しみにしております。

担任の先生が変わったり、教室が変わったり、クラスメートが変わったり、教科書が分厚くなってカバンが重くなったりと、慣れないことが続いて、お子さまが疲れたり、不安を感じたりして、順調に学習ができない時もあるかもしれません。そんな時は、いつでもお気軽にご相談ください。

お子さまのご家庭や幼稚園・学校での様子をお聞かせいただければ、私たちも教室で、よりその子に合った適切な対応をさせていただけるかと存じます。

これからの1年間、ご家族の皆様と一緒にお子さまを見つめ、小さな変化・進歩を見逃さず、お子さまの成長をサポートさせていただきたいと思っております。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

### 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“先に進んでの安心を考えて”

「低い出発点」の目指すもの

公文式学習は、今学校で習っている内容より低い学年の内容から始める場合がほとんどです。しかし必ず、いつ学年相当の内容に追いつくかという見通しをもって、毎回の指導に当たっています。

当初「えっ、こんな低いところから？ うちの子はそんなにできないのかしら・・・」と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、決してそうではありません。たし算やひき算、九九が全然できないから、そこから学習するのではなく、やり方は知っているし、答えも正しい場合でも、手際が悪くなくて時間がかかりすぎたり、九九のいくつかがパツパツと出てこないような状態を短い時間で正しい答えを出せる状態にするために練習するのです。

公文式は、現在必要とされる学力を補強する学習であるとともに、中学、高校に進んでからの勉強を楽にできるようにするためのものでもあります。小学校レベルの計算力を十分高めて、中学以降の数学に余裕をもって取り組めるようにしておきましょう。

## 2016年 4月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

本市場教室日□

横割教室日△

KUMON

保護者の皆様へ ★ 5月無料体験学習のご案内 ★  
 平素は公文式学習にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。さて、公文式教室では、下記の通り「5月無料体験学習」を実施いたします。  
 公文式学習の大きな目的は、子どもたちが自分から進んで学習する力と「高い基礎学力」を身につけること。「自分でできた！」の体験は子どもたちに大きな自信を与えてくれます。新しい教科にチャレンジして、得意な教科を増やしてください。まだ入会いただいていないご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加をお待ちしております。また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いです。  
 一緒に学習する仲間は子どもたちにとって大きな励みとなります。  
 学習期間 5月18日(水)～5月31日(火)  
 期間中、2週間で計4回、公文式学習を体験していただけます。

## ゆき子の一言コラム

### 公文式がつけてくれる力

公文式は子どもたちにどんな力をつけてくれるのでしょうか。

算数・数学力、国語力そして英語力という教科力がつくのは、言うまでもないことです。実は、公文式はこれらの教科力のほかに大事な3つの力をつけてくれるのです。

そのひとつは反復練習力です。未知の問題に接したとき、その問題が解けるようになるまで繰り返して練習する力、いわばねばる力をつけてくれます。

次のひとつは、特に国語や英語で身につくものなのですが、未知の言葉に出会ったとき、その言葉の意味を想像する力がつくのです。この力は本や文章を、速く深く読めることにつながります。

そして、最後のひとつは、自習する力です。

未知の問題に直面したとき、先ほどの反復練習力と言葉の意味を想像する力と相まって、この自習力が抜群の効果を発揮して、考える力、考えぬく力をうみ出してくれるのです。

公文式が「能力開発塾」と呼ばれたり、公文式を長く続けた子が結果として「入試や英検に強い」と言われる訳はそこにあるのです。

### ゲームやテレビの時間を制限する

最近の子どもにとって、電子ゲームで遊ぶことは当たり前のことです。友だちとの話題の中にも、ゲームに関することが数多く登場します。とはいえ、家庭で際限なくゲームで遊ぶ時間を費やしていたら、大切な勉強や読書に当てる時間はなくなります。ということで、たいていの家庭では、ゲームやテレビをある程度制限しているでしょう。しかし、子どもにとっては、楽しいことはいつまでも続けようとし、続けたいわけですから、どこかで『我慢』を強いられるわけです。素直に聞くとときばかりではありません。時にバトルも起こります。それなら、完全に禁止すればよい、という考えもできますが、実際は難しいことです。親が強権発動して、「全面禁止！」を貫くことができれば、確かに子どもはそれに従うことかも知れませんが、しかし、友だちがみなやっていることを、禁止してしまうことは、どの親にも抵抗があることでしょう。ですから、実際は、時間制限をかけることになります。私は、子ども（小学生）がゲームをしたり、テレビを見たりする時間は、せいぜい一日あたり一時間程度ではないかと思えます。

「えっ、そんなに少ないの？」と思われたお母さん方いらっしゃいませんか。

子どもにはそんなにたくさんの時間はないのです。学校から帰宅して、宿題を始めとした勉強を行い、少し遊んで、夕食を食べて、お風呂に入って、寝るまでの時間、どれだけの時間があると思われませんか。一度、子どもの生活パターンを一週間くらい一覧表にしてみるとよいでしょう。そうすることで、子どもたちに与えられている自由な時間は、かなり少ないことがわかるはずですが、子どもにとっての貴重な、そうした時間のほとんどをゲームや、テレビを見たりすることで過ごしてしまうことは、大変もったいない時間の使い方なのです。確かにテレビには教養番組もあり、それを見ることで、普段できない経験を共有できます。しかし、子どもたちが好んで見る番組は、そうしたものではないはずですが、人気のアニメやバラエティです。それに、テレビを見ることによって得られる知識量は、読書をすることによって得られる知識量の六分の一程度であると言われていています。ですから、テレビを見せるのであれば、本を読ませた方がいいのです。ですから、子ども部屋があって、自由にテレビが見られる、好きな時間にゲームができる…という環境は、子どもにとっては一見、幸せかも知れませんが、実は、少しずつ少しずつ、子どもの首を締めつけていることになります。ゲームを続け、バーチャルの世界に使ってしまうことへの弊害も叫ばれています。

勇気を出して、ゲームやテレビの時間は制限してください。

「宿題を終えるまではテレビを見てはいけません」

「ゲームは一日〇分だけ」

言い方はいくらでもあります。しかし、そういう中にも、子どもに説得力を持たせてください。「なぜなのか…」ということを家庭ではっきりと説明し、主張してください。それが、子どもの心を揺る動かし、どうしても、説明がつかなければ、「これが家の方針です」でも構いません。

自分で時間の使い方をコントロールできる子どもは賢いのです。そうさせるためにも、まずは、家庭で制限を加え、そしてそれが自分でできるようにしなくてはなりません。そして、自分で時間の使い方を考えられ、計画を立てて実行できるように導くのです。

そのための第一歩が、ゲームやテレビの時間を制限することです。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。4月分の会費引き落としは3月28日(月)です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。